

鳥類

兵庫県で確認されている鳥類は 327 種（平成 14 年）で、これは日本で記録のある鳥のおよそ半数にあたります。本県の鳥類相に関しては、「兵庫の鳥」（昭和 45 年）、「兵庫の鳥増補新訂版」（平成 2 年）、「兵庫県の鳥類」（平成元年）、「兵庫県の鳥類」（平成 7 年）、「兵庫県における鳥類の分布と変遷」（平成 8 年）などでまとめられた経緯があり、兵庫野鳥の会や日本野鳥の会兵庫県支部をはじめとした市民団体の活発な活動に支えられて継続的な記録が残されています。

本県の変化に富んだ地形や植生分布に対応して、鳥類も多様性に富んでいます。日本海側は海まで山が迫る断崖であり、ハヤブサやミサゴの繁殖地となっているほか、渡りの拠点でもあることからアカショウビンやヤイロチョウなど県内で稀な種がみられる地域となっています。

県中央部から日本海まで南北に長く伸びる円山川流域沿いの水田は、コウノトリの野生復帰地として有名ですが、タゲリやタシギ、カモ類など農耕地に依存する種も多くみられます。

氷ノ山を中心とした中部山地には、絶滅の危険性が高いイヌワシを筆頭とする各種猛禽類、ブッポウソウ、アカゲラ、オオアカゲラ、クロジといった様々な森林生鳥類の生息場所になっています。

県南部は、加古川をはじめとした広い流域を持つ河川が瀬戸内海に向かっていくつも流れており、その流域に沿って多様な鳥類相がみられます。

上流域では、ヤマセミ、ヤブサメ、オオルリ、サンコウチョウなど、中・下流域ではサギ類やカモ類、沿岸部ではカモメ類、甲子園浜を代表とするわずかながらも残った干潟ではシギ・チドリ類をみることができます。

播磨地域では中流部から河口にかけて、里山を形成するなだらかな丘陵と多数のため池を配する平野とが広がり、内陸性のシギ・チドリ類やクイナ類、草原生のセッカやオオヨシキリなどが生息しています。

淡路地域では周辺海域にヒメウなどの海鳥類が生息し、年によっては海鳥の大群が出現することもあります。また、本州と四国とを結ぶ渡りのルート上に位置し、時に 1 日数百羽単位のサシバやハチクマが友ヶ島や明石海峡方面から四国へ向けて渡っていくのをみることができます。

兵庫県版レッドデータブック 2003 に掲載されている鳥類は、A ランク 9 種、B ランク 41 種、C ランク 34 種、要注目 4 種で、A ランク

に属するものは猛禽類、Bランクにはシギ類、Cランクにはキビタキやゴジュウカラといった森林生の種が多くみられます。

レッドデータブック掲載種以外にも、ゴイサギやヒバリといった人里に普通にみられる種が減少傾向にあることも指摘されています。近年、開発が進められてきた地域は山間部や里山です。そのため、ニュータウンのすぐそばで、通常なら山中でしか出会えないような珍しい鳥を見かけることも少なくありません。このことは、県民にとって自然が身近にあるという好ましい側面と、開発の仕方を一歩間違えれば、貴重な自然を永久に失ってしまう危険性があることを示しています。

豊岡では、コウノトリの野生復帰計画が着々と成果をあげています。平成19年7月には、国内46年ぶりに野外でヒナが巣立ち、平成20年7月までには9羽のヒナが巣立ちました。すでにコウノトリは地域のなかで人と共生しつつあり、水田の中で悠々と歩く姿が日常的にみられています。この共生を維持・発展させるためにも自然環境の保全・修復を進めることが、本県の豊かな自然を活かすうえで重要です。